

イケてる PEOPLE

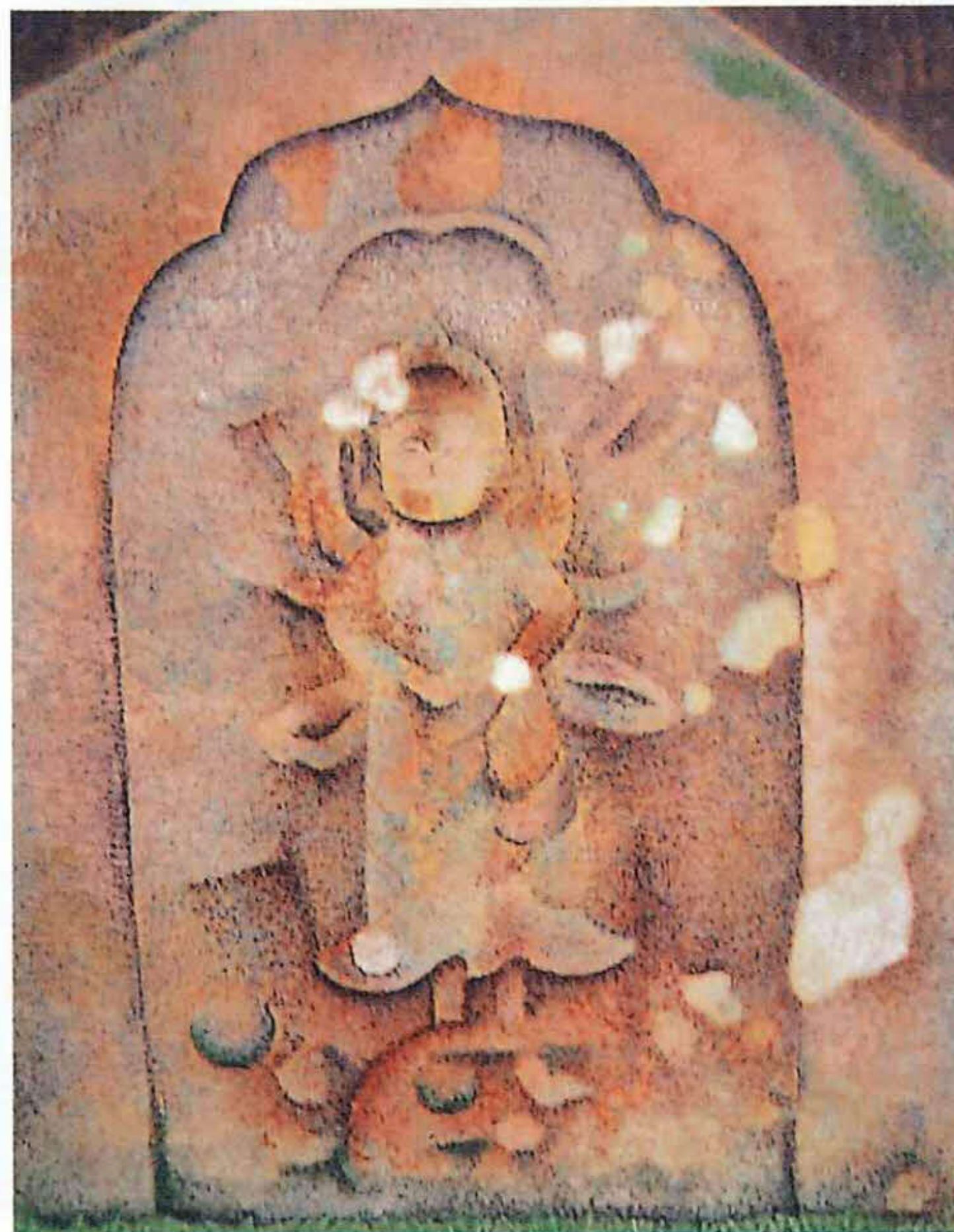
自然を愛し 日本画に四季を現す

神戸婦美子さん
(但東町)



▲芽ぶき

▼堂(ほこら)



大阪生まれの神戸婦美子さんが縁あって、但東町相田にアトリエ兼住宅を建て、暮らし始めてから3年目の夏がやってきました。但東町役場のアルバイトをしたり、公民館活動の絵画教室で、絵を皆さんに教えたりと、すっかり但東町の生活にとけ込んでいます。

自然をこよなく愛する神戸さんは、山々や木々の緑、野に咲く花を、毎日窓から見られるだけで、とても幸せな気持ちになるといいます。絵を描き始めて23年。自然に囲まれたアトリエで、日本画家として自分の作品をコツコツと生みだしています。

「私の場合、毎日の生活の中で満ちてきて、自然にあふれ出てくるものが絵になります。五感を通して感じて、はじめて絵が描けるんです。パッと見て、パッと描くということはできません

ね。絵はごまかしがきかないので、すべて絵に出してしまうんです。ですから、自分自身の内面を鍛えたいと日々精進しています」と神戸さん。

納得がいく作品を描くためには、じつと観察している時間がとても大切だといえます。その真剣なまなざしの中に、絵に対する姿勢をひしひしと感じました。神戸さんの描く日本画は、自然の風景や野仏がモチーフとなっているものが多いのもうなずける気がします。

神戸さんはアトリエ前の畑で、季節の野菜をつくっています。

「土をさわっているとホッとするんです。畑仕事をしていると、近所のおじいさんやおばあさんに声をかけてもらい、いろいろなことを教えてもらっています」

愛犬ビーくんとの毎日の散歩は、一番好きな時間だといえます。四季の移り変わりを肌で感じ、次はこの風景を描いてみたいと感じる瞬間です。

「春の朝霧や秋の稲穂が風にたなびく風景を見たときは、オーケストラの音楽が響き渡るような感じで、ゾクゾクと体中に興奮が走り、このすばらしい風景を描きたいと心から思いました」

次の個展にむけて、作品づくりに取り組んでいます。次の個展は但馬でと考えている神戸さんでした。

平成13年
7月20日(金)
オープン!
予約受付中

ログハウス風 湯治宿

現代流・湯治生活のススメ ● こだま荘

ログハウス風湯治宿
こだま荘

〒668-0324
兵庫県出石郡但東町相田36
TEL.0796-53-4048
FAX.0796-53-4049
<http://www5.nkansai.ne.jp/hotel/toji>

- 部屋は全部で5室
- 1部屋に2~4人宿泊可能
- 各部屋にトイレ・自炊設備があります
- 両端の2部屋のテラスにはペット小屋があります

かわいいペットと一緒に宿泊できます

- 2名様以上でお申し込みください

但東町
シルク温泉
すぐ

- ご宿泊料金 (1泊)
- 2名様1室 お一人様 3,000円
- 3名様1室 お一人様 2,800円
- 4名様1室 お一人様 2,500円

ザンザカザットウの声と軽やかな太鼓の音が山あい響き、踊り手たちが身も軽く舞う。但馬にしか分布していない「ざんざか・ざんざい」踊り。

まろり 伝説



■寺内ざんざか踊り
(和田山町寺内山王神社)
7月第3日曜日(今年は7月15日)
／県指定無形民俗文化財
五穀豊穡や子孫繁栄を願って、元和年間(1615～1624)の頃に始まったといわれる。山王の使いである猿に扮した12人の踊り手が円陣を組み、腰の太鼓を「ザンザカザットウ」の囃子に合わせて打ち鳴らす。その中心では2人の踊り手が飾り付けをした高さ3メートルの「しない」と呼ばれる竹を背負い、それをからませたり、地面に打ち付けたりしながら踊りを奉納する。



■九鹿ざんざか踊り
(八鹿町九鹿日枝神社)
10月第3日曜日(今年は10月14日)
／県指定無形民俗文化財
神功皇后の三韓征伐の凱旋を祝って踊ったのが始まりと伝えられる。4～5人からなる、かみしも姿の唄い手の踊り歌とかけ声に合わせ踊る。小中学生が角兵衛獅子の所作に似た子供踊りで前座を務め、青年を中心とした8人が大人踊りを、豆絞りの手ぬぐいでむこう鉢巻、腰に太鼓、手に木ばちなど古式に則り踊る。



■久谷ざんざか踊り
(浜坂町久谷八幡神社)
9月15日／県指定無形民俗文化財
八幡神社の祭りに、神前や家々の庭先で五穀豊穡や氏子の安全を願って踊る。踊り手は若い中高生で、華やかな一文字笠をかぶり、腰につけた締太鼓を叩きながら踊る。

但馬にかたまつて伝承されている「ざんざか踊り」。現在は和田山町寺内、八鹿町九鹿、大屋町大杉・若杉、浜坂町久谷の5カ所でおこなわれています。大屋町大杉だけが、なぜか「ざんざい」といいます。いずれも、太鼓踊りの系統で、名の起りは「ザンザカザットウ、ザンザカザットウ」という拍子や太鼓の音からきたものとか。竹野町轟の古代太鼓踊りも、太鼓の叩き方や囃子詞から、ざんざか踊りに分類できます。同じ「ざんざか踊り」と呼ばれていて

も、踊りの構成や人数、踏舞の形、歌詞、衣裳など、すべてが別々で、歌詞の節調すら少しずつ異なっています。ただ、腰に太鼓をつけ、幣(しで)を背負うか、あるいはそれに類した飾り物を用いることは共通しています。全部の踊りが神社への奉納で、五穀豊穡と災害防除を祈願します。いつのころから始まったのか、はっきりとはわかりませんが、大屋町大杉では、昔、カガミという流行病が村をおそい、これを嘆いた庄屋が慶安2年(1649)

に伊勢へ参拝し帰る途中、奈良の春日神社でこの踊りを習い覚え、旧暦7月16日氏神に奉納したところ、村は平穏になったと伝えられています。踊りの歌詞から室町時代の色合いが濃く、その頃から代々伝えられているのではという説もあります。西播磨や丹波地方へ行くと「ざんざか踊り」に似た踊りが、「チャンチャコ踊り」という名で残っています。しかし、「ざんざか・ざんざい」という名称の踊りは但馬にしかないのです。



■大杉ざんざい踊り
(大屋町大杉二宮神社)
8月16日／国指定無形民俗文化財
鬼踊りとも呼ばれ、かけ声の中、大しでを背負った4人の中踊りを大勢の踊り子が取り囲み、古式に則り踊る。



■若杉ざんざか踊り
(大屋町若杉三社神社)
8月16日／県指定無形民俗文化財
鬼踊りと呼ばれる大杉ざんざいに対して、若杉ざんざいは姫踊りという。その別名が表すように、優雅でかつ古式ゆかしい踊り。その昔、大和の修業者が一人やってきて、村で流行していた大難の病気を平癒するため、氏神様に踊りを奉納したことから始まったとされる。

ここのとりの郷
弁当
1,000円(税別)

但馬・豊岡は「ここのとりの郷」として知られ、また、「大石りく」のふる里としても有名です。そのような豊岡よりお届けするお弁当でございます。ご賞味くださいませ。
■要予約でお願いいたします。

NO.2
800円(税別)

NO.1
800円(税別)

豊岡市駅前

ホテル 大丸

TEL.0796-22-7258

理玖壽